

土木学会 見える化データ 2013

土木学会が現在どのような状況にあるかを、目先の現象や各人の印象に捉われることなく、様々なデータを基にできる限り正確に把握し、それを踏まえて今後の方針を議論し、決定していくことは極めて大切である。また、その内容を学会員のみならず広く社会に公開し、開かれた学会として、より良い方向へと発展し続ける必要がある。

このような視点から、土木学会では、「90年誌」(土木学会略史1994-2004)作成を機に、各部門においてデータを継続的に整備することを行ってきた。そして、「JSCE2010」を策定するにあたり、このデータを企画部門に集約する体制を整え、「見える化」と称して学会の現況把握および公表に向けてデータを集約することとし、毎年更新して各項目の時系列変化を捉えるとともに、理事会での報告の後、土木学会のウェブサイト公開している。また、5年ごとの土木学会の活動目標と行動計画(JSCE 20xx)の策定の際には、この結果を再整理するとともに参考資料として掲載する。

このたび2012年度のデータをとりまとめた。これらの中から特に重要なものを抜粋し、理事会に報告するものである。

2014年1月13日現在

(2014年5月5日修正)

収集データ一覧

1. 学会の基礎数値

土木学会組織図
会員区分別会員数
会員数の推移／会員区分別会員数の推移
女性個人会員数の推移／女性会員の割合の推移
性別年齢階層別会員構成／年齢階層別の性別会員構成
総収入と総支出の推移／目的別収支内訳
財産の状況
本部収支の推移(収入)／(支出)
支部収支の推移(収入)／(支出)
収支の内訳(収入)／(支出)
会費収入の用途
図書館来館者数の推移
ウェブサイト閲覧社数の推移
支部行事開催数の推移
支部行事参加者数の推移

2. 学術講演

年次学術講演会 講演数と参加者延べ人数の推移
年次学術講演会 部門別講演数の推移
年次学術講演会 部門別講演数の推移／比率の推移
土木学会論文集 掲載数
土木学会論文集 投稿・掲載・返却数
土木学会賞 表彰件数
調査研究部門 委員会活動参加・関与者数

3. 社会とのコミュニケーション

記者発表数
新聞掲載数
ホームページの閲覧状況
論説一覧
国際ジョイントセミナー開催数と派遣者数
新刊数と刊行物売上額の推移
トークサロン参加者数
ウォークサロン

4. 社会への直接的貢献

イブニングシアター参加者数
技術者資格 認定者数
CPD認定プログラムの推移
災害調査団派遣実績
小中学校学習支援
支部行事
委員会行事
宣言・提言

土木学会 見える化データ 2013（抜粋）

- 土木学会は、2014年に創立100周年を迎える公益社団法人です。
- 学会個人会員数は約30,000人、その多くは企業に所属する土木技術者です。
- 土木学会には、30以上の研究委員会が設置され、多くの学会員が参加し活発に活動しています。
- ここでは、土木学会の2012年度の活動のうち、社会支援、社会とのコミュニケーション、社会への直接的貢献を目的とした活動などを抜粋して紹介します。
- 多くの皆様にご覧いただき、開かれた学会として、より良い方向へ発展し続けていきたいと考えています。

掲載データ一覧

●社会支援

- 災害調査団派遣

●社会への直接的貢献

- イブニングシアター
- トークサロン
- ウォークサロン

●社会とのコミュニケーション

- 小中学校学習支援
- 女子生徒の理系選択支援
- 支部行事
- 委員会行事

●学会からの発信

- 宣言・提言

災害調査団派遣

- 土木学会では、国内外を問わず大災害が発生した際に、発災後ただちに災害対策本部を設置し調査団を派遣して、専門的調査を行い、学術的、技術的見地からメカニズムの解明と防災上の提案を行っています。
- 特に東南アジアを中心とする海外へは、1999年から2012年の間に、延べ25か国、32回、341人の調査団を派遣しています。

海外調査団の派遣実績

年	調査団派遣数(回)	延べ団員数(人/年)	派遣国・地域等
1999年	2	32	台湾(地震)、トルコ(地震)
2000年	1	7	メコン河(水害)
2001年	3	27	エルサルバドル(地震)、インド(地震)、ペルー(地震)
2002年	2	35	イラン(地震)、ヨーロッパ(水害)
2003年	2	15	トルコ(地震)、アルジェリア(地震)
2004年	1	11	イラン(地震)
2005年	4	67	スマトラ(地震)、アメリカ(水害)、パキスタン(地震)、インドネシア(地震)
2006年	2	21	ジャワ島(地震)、スマトラ(地震)
2007年	3	22	ペルー(地震)、スマトラ(地震)、バングラデシュ(水害)
2008年	3	11	インドネシア(地震)、中国(地震)、ミャンマー(水害)
2009年	4	47	イタリア(地震)、台湾(台風・水害)、インドネシア(地震)、フィリピン(水害)
2010年	2	24	チリ(地震)、クライストチャーチ(地震)
2011年	2	20	タイ(水害)、トルコ(地震)
2012年	1	2	アメリカ(ハリケーン)

イブニングシアター

- 土木学会では、「イブニングシアター」として一般の方を対象とする、土木技術に関する無料の映画会を定期的に開催しています。
- 2001年11月から2013年4月までの間で75回開催し、延べ11,339人の方にご参加いただきました。
- 2012年度は東京都内で7回、札幌市内で2回、名古屋市内で1回、開催しました。
- 表は、2012年度に上映したプログラムの一覧です。

作品名	制作年
潮風に築く～白鳥大橋建設記録～	
石狩川 56年8月洪水の記録	
旭橋物語	
勝鬨橋	1940
地熱に挑む	1963
開発 大津岐ダム建設記録	1969
「時を越えて」～名橋・万代橋～	1990
北越北線 鍋立山トンネル工事 ～超膨張性地山との戦いの記録～	1996
石を架けるー石橋文化を築いた人々	1996
洪水をなだめた人々ー治水と水防にみる先人の知恵ー	1997
復旧の軌跡ー阪神・淡路大震災土木施設の災害記録	1998
超過密都市を掘る 4心円シールド工法 ～都営地下鉄12号線六本木駅シールド工事～	2000
次世代のアーチをかける 第2東名富士川橋	2000
明日をつくった男ー田辺朔朗と琵琶湖疎水	2003
つくばエクスプレス建設物語 ～首都圏の未来を拓く～	2006
余部鉄橋の記憶	2007
昭和34年 伊勢湾台風	2009
余部橋りょう さらなる100年へ	2010
忘れない、東海豪雨	2010
三陸の奇跡」と「命の道	2011
東日本大震災、現場の戦い	2011
東日本大震災 ー初動期にどう対処したかー	2011

トークサロン

- 土木学会では、一般の方も対象として、時々の社会で注目されている土木工学に関連する話題について、講師をお招きしてお話をいただき、参加者の方々との懇談・討議をしていただく「トークサロン」を定期的に開催しています(参加費は飲み物・軽食付きで1回2,000円です)。
- 2003年4月の第1回から2012年2月の第33回まで、延べ1,265人の方に参加していただきました。
- 表は、2012年度の講師テーマの一覧です。

回数	開催日	講師	テーマ
第34回	2012年9月18日	藤井 聡	列島強靱化論をめぐる話題
第35回	2012年11月20日	細見 寛	土木の新しい挑戦の方向性・・・土木は、グリーンエンジニアリング
第36回	2013年1月30日	大田 弘	先人達に学ぶ土木の心ー“クロヨン”が遺したものー
第37回	2013年2月22日	森田康夫氏	国土教育を考えるー日米の社会科教科書比較を通してー

ウォークサロン

- コンサルタント委員会BC小委員会では、「土木の語り部と“東京の土木百景を”観光工学サロン！」等と題した町歩きの「ウォークサロン」を、年間約50回、開催しています。
- 2012年度の代表的なものをご紹介します。

開催日	行事名	開催場所	概要	参加者数	組織名
2012年04月3日 ～5日	No.81 第38景は“忠臣蔵！ 刃傷松の廊下と浅野内匠頭切腹”の現場を歩く	東京駅 周辺	東京駅、行幸通り、和田倉橋、大手塚、大手門、本丸内堀、本丸石垣、平川門、日比谷公園、浜離宮、築地川跡、八丁堀跡、弾正橋など土木について、歩きながら解説した	毎回数名の参加/ 年間約50回開催	コンサルタン ト委員会(B C研究小委 員会)
2012年12月25日	No.117 第57景は箱根 駅伝路を田町から大森町駅まで巡る	田町駅～ 大森駅	第一京浜国道、東海道の石積み護岸、高輪大木戸跡、新八ツ山橋、東海橋、立会橋、鈴ヶ森刑場跡、大森陸橋、内川橋など土木について、歩きながら解説した		
2013年3月11日	No.127 第36景は“勝海舟と 西郷隆盛が江戸城開城会談”の現場を歩く	四ツ谷駅～ 新橋駅	勝海舟氷川町屋敷跡～六本木～麻布十番～古川～NEC本社(薩摩藩邸跡)～勝・西郷会見の地～芝浜の薩摩藩浜屋敷～勝・西郷が参った愛宕神社～増上寺～帝国ホテル(薩摩藩上屋敷跡)など土木と歴史について、歩きながら解説した		

コンサルタント委員会ウォークサロン:

<http://www.jsce.or.jp/committee/kenc/osirase.htm>



小中学校学習支援

- 土木学会では、小中学校の総合学習および理科・社会などの教科教育において、活用して頂ける教材や出前講座等の提供・支援を実施しています。

時期	実施先	支援対象	支援題目	授業内容	授業風景	支援団体
2012年 9月13日 10月12日	東京	多摩市立 連光寺小学校	小学4年生を対象とした 環境学習支援事例	多摩川を題材に ①水質調査(水の汚れ調べ)の学習 ②水辺環境の観察(川の生き物、流れる水の働き、河川構造物の働きなど)		キッズプロジェクト検討 小委員会
2013年3月6日	群馬	群馬大学 教育学部附属小学校	小学6年生を対象とした 自然災害学習支援事例	第6学年理科「大地のつくりと変化を調べよう」における、自然災害に関わる学習支援として ①液状化実験による体験学習 ②共振実験による体験学習 ③地震発生の仕組みに関する学習		キッズプロジェクト検討 小委員会

女子生徒の理系選択支援

- 土木学会では、毎年「女子中高生夏の学校 ～科学・技術者のたまごたちへ～」に協力し、女子中高生の理系選択の支援を行っています。

時期	会場	名称	参画内容	主な内容	実施風景	支援団体
2011年8月18日	土木学会 (東京都)	女子中高生夏の学校 2011～科学・技術者の たまごたちへ (主催:女子中高生夏 の学校 2011 実行委員 会)	共催、実施協力	「Part 1: 今、私たちにできること」と題し、震 災復興・復旧のためにできることを考えた。 ・キャリア講演 ・ポスター展示とデモ実験 ・学生企画 ・女性技術者・研究者の職場探訪		ダイバーシ ティ推進小委 員会
2012年8月9日～11日	国立女性 教育会館 (埼玉県)	女子中高生夏の学校 2012～科学・技術者の たまごたちへ (主催:国立女性教育 会館)	企画委員として参画	プログラム全体の企画、実施に参画した。 ・キャリア講演 ・ポスター展示・キャリア相談 ・サイエンスカフェ 等		ダイバーシ ティ推進小委 員会

支部行事

- 土木学会には、全国に8支部があり、土木への理解とご意見をいただく機会として、各種行事を開催しています。各支部の参加者数の多い行事をご紹介します。

(2014年5月5日：東北支部の情報を追加)

支部：
<http://www.jsce.or.jp/branch/index.shtml>

社会とのコミュニケーション

支部名	開催日	行事名	開催場所	概要	写真	参加者数
北海道支部	2012年10月21日	PRイベント	北見市 北見文芸ホール	土木に関するPRのため、パネル展示や子供向けの縁日や記念品を配布した。土木に関する相談に応じアドバイスをした。		一般約700人
東北支部	2013年1月17日	第4回 東北地方の橋梁保全に関するシンポジウム	宮城県仙台市 仙台市 情報産業プラザ	テーマ『維持管理の確実性と容易さについて』とし、橋梁保全に関するシンポジウムを行なった。		500名
東北支部	2013年3月21日	東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会総括報告会	宮城県仙台市 仙台市 情報産業プラザ	「東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会総括報告会」を合同(土木学会・地盤工学会・地すべり学会・東北建設協会・コンクリート工学会・建築学会・都市計画学会)で行なった。		500名
関東支部	2012年8月25日	第18回 コンクリートカヌー大会	荒川調整池「彩湖」	土木の主材料によるコンクリートでカヌーを作り、ものづくりの楽しさを実感してもらうための、コンクリートカヌー大会。		会員、一般約500名
中部支部	2011年11月25日	市民対象講座 「東海・東南海・南海地震に備えて」	名古屋 通信会館	「大規模震災発生時の緊急対応について～阪神・淡路および東日本大震災からの教訓を生かして～」 「液状化を考える～東日本大震災の分析と課題を通じて～」		一般127人
関西支部	2012年10月31日	建設技術展2012 近畿での『土木実験・プレゼン大会』 ～どうして?なぜ? が一目でわかる～	マイドームおおさか	どうして?なぜ?が一目でわかる土木実験		200名
中国支部	2012年11月10日 ～23日	第5回「身近な土木を描いてみよう!」 図画コンクール 優秀・佳作作品展示	広島市 市民交流プラザ	第5回「身近な土木を描いてみよう!」 図画コンクール」優秀作品13点、佳作作品50点を展示		展示期間中約300名
四国支部	2012年11月2日	「土木の日」 記念講演会 「新たな公共工事執行システムの構築」	香川県 かがわ国際会議場	地方中心建設会社を見据えた入札システムおよび契約システムに着目した将来の公共工事システムの全体像について提示し、それを実現するための取り組みについての活動内容等を紹介した。		一般170名
西部支部	2012年8月22日	平成24年度 親子見学会	東九州自動車道 光国トンネル現場 遠賀川水辺館	「土木」への理解を深めてもらうことを目的に、小中学校生を対象とした「親子見学会」		大人13名 子供20名

委員会行事

- 土木学会に設置された委員会でも、市民のみなさま向けの行事を開催しています。

開催日	行事名	開催場所	概要	写真	参加者数	組織名
2012年10月21日	土木ふれあいフェスタ (100周年記念事業)	名古屋市 イオン モール大 高店	一般の方に土木への理解を深めていただくために、土木に関する展示、体験コーナー(液状化、トンネル、橋)、クイズラリーなどを実施することで、交流を図った。		一般約400名	コンサルタント委員会(市民交流研究小委員会)
2012年9月5日 ～ 7日	土木コレクション2012	名古屋大学 東山 キャンパス ES総 合館	土木界が保有する歴史資料、図面、写真など普段目にする事ができない各種コレクションを展示、公開するとともに、最近話題になった新しいコンセプトのプロジェクトについて展示した			土木の日実行委員会土木コレクション小委員会
2012年10月31日	建設技術展2013近畿 土木実験プレゼン大会	大阪市 マイドーム 大阪	建設技術展の来場者を対象に、土木を模型などを使ってがけ崩れのメカニズムについて解りやすく説明した。		一般200人	地盤工学委員会 斜面工学研究小委員会
2012年11月21日 ～24日	土木コレクション2012 HANDS+EYES	東京都 新宿西口 広場	土木界が保有する歴史資料、図面、写真など普段目にする事ができない各種コレクションを展示、公開するとともに、最近話題になった新しいコンセプトのプロジェクトについて展示した			土木の日実行委員会土木コレクション小委員会

宣言・提言

- 土木学会は、関係学協会とも連携して、社会に向けて各種の提言等を行っています。
- 2010-2012年度の宣言・提言には表のものがあります。

日付	提言等名称	内容
2011年5月	宣言「公益社団法人への移行にあたって」	人々の安全を保障し、文化・芸術の発展を目指す総合的な営みが「土木」である。したがって「土木」という営みは本源的に「公益」に資するものであり、「土木」に従事する技術者や研究者等は、本質的に「利他的・倫理的・公共的」であることが求められている。 土木学会は公益社団法人への移行にあたり、土木学会の公的な責務を改めて認識し、土木学会員のための「公益」のみならず、土木界並びに社会に対する「公益」の新たな展開のため、土木学会が貢献できる対象の拡大とその内容の充実を図りつつ、公益社団法人に相応しい形態でその諸活動を全面的に展開していくことを、宣言するものである。
2011年3月23日	土木学会長・地盤工学会長・日本都市計画学会長 共同緊急声明「東北大震災一希望に向けて英知の結集を」	国土や都市及び社会基盤を専門とする技術者・計画者として、この難局に立ち向かいたい。 技術者・計画者集団としてなすべきことは、まずは、震災の調査分析および今までに積み重ねてきた対策の再評価。次に、急がれる緊急復旧への実行性のある提言及び恒久復興への提言、さらには国土の危機管理を念頭に置いた社会システムの再編等である。 想定外という言葉を使うとき、専門家としての言い訳や弁解であってはならない。 -巨大地震に対しては、先人がなされたように、自然の脅威に畏れの念を持ち、ハード（防災施設）のみならずソフトも組み合わせた対応という視点が重要であることを、あらためて確認すべきである。 -当たり前のように享受してきた、電力、輸送体系のマネジメントシステムの見直しもわれわれが取り組むべき課題であろう。 -そして、何よりも皆が待ち望む力強い地域の再生を実現しなければならない。
2010年7月30日	29学会（43万人会員）会長緊急声明「我が国の科学・技術の進むべき方向と必要な政策」	科学・技術による力強い日本を実現するための大学・研究機関の強化と予算措置を求める 1.研究教育予算・投資の維持・改善 2.多様な評価・価値観の導入 3.女性・若手研究者支援と奨学金の充実 4.政策決定への学会からの意見表出
2010年4月30日	26学会（41万人会員）会長声明「科学・技術による力強い日本の構築－我が国の科学・技術の進むべき方向と必要な政策」	A) 研究教育予算・投資の改善 B) 研究資金の過度の集中の是正と多様な評価・価値観の導入 C) 女性・若手研究者支援と奨学金の充実 D) その他 学術法人、科学・技術の日、政策決定
2010年1月19日	日本学術会議土木工学・建築学委員会・土木学会・建築学会・日本コンクリート工学協会 緊急提言 提言1. 科学的論拠と合意形成にもとづいた社会基盤整備の推進 提言2. 地球温暖化の緩和策に向けた建設分野からの具体的取り組み	「ロンクリートから人へ」の標語の趣旨は「人間重視の社会基盤整備」と考えます 人間重視の社会基盤整備にあたっては、建設分野のみならず国を挙げての取り組みが必要です 「CO2等排出量2050年までに60%削減目標」に対する提言「地球温暖化対策への建設分野からの具体的取り組み」 - 国土計画および交通・運輸計画からのCO2等排出量削減 - 建設分野のCO2等排出量削減 - 温暖化対策技術の海外支援